

平成30年度岡山県障害者施策推進審議会・岡山県自立支援協議会  
岡山県障害者差別解消支援地域協議会・議事録（要旨）

1 日 時 平成31年2月15日（金）

14:00～15:50

2 場 所 ホテルメルパルク岡山3階「曙」の間

3 出席委員 小池会長、石原委員、伊山委員、岡野委員、小川委員、奥山委員、片岡委員、竹内委員、徳弘委員、中島委員、永田委員、難場委員、藤井（操）委員、藤井（利）委員、藤井（真）委員、藤田委員、本田委員、森脇委員、薬師寺委員、横山委員  
以上20名（※4名欠席）

4 議事概要（主な質疑応答）

事務局から各議題について別添資料に基づき説明。その後質疑・協議等を実施

**（1）全体会議**

**①第5期岡山県障害福祉計画・第1期岡山県障害児福祉計画について（説明：障害福祉課）**

（石原委員）

・なぜ、この説明をこのタイミングで行うのか。

（片山障害福祉課長）

・全体会議ということで新たに就任された委員も含め、この計画の概要を改めて御承知おきいただきたく思っている。

（小池会長）

・外国人人材の福祉分野での活躍という話もあるが、看護等の人材確保はどうしていくのか。

（中谷部長）

・本県でも一定程度の活躍が想定されるため、来年度予算のなかで対応予定としている。

（本田委員）

・私が所属するNPO法人は旧内尾センターで24時間電話相談、ホステル事業などを実施している。来年度からはどのように運用等していく予定なのか。

（津島健康推進課総括参事）

・サービス利用に支障をきたすことがないように進めていきたい。

**②障害者差別解消推進に向けた取組状況と対応事例について（説明：障害福祉課）**

（藤田委員）

・聴覚障害のある人は、ろう、難聴など様々であり、それぞれで支援の仕方は違って来る。県はこうしたことを認識した上で、しっかりと対応してもらいたい。

（片岡委員）

・障害者差別解消法が施行され3年経過したが、障害を理由とする不当な取扱事例（裁判）を目にする度、どうすれば良いのかわからなくなる。

（小池会長）

・司法の判断に対しては、県としてもコメントするのが難しいと思う。

（片山障害福祉課長）

・こうした問題をみんなが議論しながら、差別解消の取組を進めていけたらと思う。

**（2）岡山県自立支援協議会**

**①岡山県障害者自立支援協議会専門部会の設置について（説明：障害福祉課）**

（小池会長）

・部会設置ということだが、会議が増えすぎるのではないか。

（片山障害福祉課長）

・今後は、個々の会議の整理統合はもとより、この専門部会を中心に個々の会議との横断的な連携を図り、全体としても効率化を図れないかと考えている。

(中島委員)

- ・今回「人材育成部会」、「就労支援部会」、「医療的ケア児等支援部会」の3テーマとした意図は何かあるのか。医療と障害福祉の連携では、発達障害もウエイトが大きいと思う。

(片山障害福祉課長)

- ・現場の課題から、当面、この3テーマで、取り組みたいと考えているが、ご意見や状況の変化を踏まえながらリニューアルしていきたい。
- ・なお、発達障害については、トータルライフ支援に向けたプロジェクトに医療保健・教育部局などとも連携した県発達障害者支援地域協議会等で議論しながら、取り組んでいるところである。

(藤井委員)

- ・各地域と県の自立支援協議会との関係はどうなっているのか。

(片山障害福祉課長)

- ・本県の場合、14の地域自立支援協議会がある。県に専門部会を設けることで、地域との横連携を図り、この県自立支援協議会（親会議）での議論に反映していきたい。

(小池会長)

- ・この3つの専門部会の設置ということによろしいか。

(全委員)

了承

### ②就労継続支援A型事業所の経営改善状況について（説明：指導監査室）

(中島委員)

- ・就労継続支援A型事業所の利用者の中には、途中から賃金が最低賃金未満となるような事例もあると聞く。経営状況が改善された事業所もあるようだが、そういった点も確認してほしいが、どうか。

(羽場室長)

- ・一定の基準に該当すれば、賃金を最低賃金未満に減じることができる特例がある。

(中島委員)

- ・その特例の適用がどうなっているのか、そのあたりも情報提供をお願いしたい。

(羽場室長)

- ・持ち帰らせていただき研究させていただきたい。

### ③第3期岡山県障害のある人の自立に向けた所得向上計画について（説明：障害福祉課）

(永田委員)

- ・自立に向けた目標というが、この目標額ではとても自立できない。

(片山障害福祉課長)

- ・どこまでいけば自立なのかということだが、自立という言葉は重く受け止めたい。県としては障害のある人の就労の場や機会の拡大などを含め、目標に向けて一歩ずつ取り組んでまいりたいと考える。

—以上—